

会津美里町馬越集落の 取組み事例

会津坂下普及所



松村 正彦

1 会津美里町馬越集落の紹介

馬越集落は、会津美里町の東南に位置し、東部は阿賀川を挟み会津若松市に接した集落です。地形は阿賀川左岸の台地で、南方から西方にかけ山林に囲まれています。農家戸数は10戸で、地区の水田面積は6.6haと小規模ですが、担い手農家は4名おり、水稲のほか園芸作物（トマト、キク、菌茸）を取り入れた経営を行っています。

2 直播栽培への取組み経過

会津美里町の会津本郷地区では、水稲の低コスト化・省力化の推進のために水稲直播栽培の導入を推進し、平成17年では本郷地区の水稲作付面積491haのうち約20%にあたる109haで水稲直播栽培が導入されています。

その中で、馬越集落では、平成14年から集落の水稲の作付けのほとんどを直播栽培で実施しています。直播栽培を集落で団地化し実施することで、直播栽培に対応した水利調整が可能となり、また栽培者全員が同じ栽培方法をとっていることから、直播栽培の管理が徹底され失敗も無くなってい

ます。

直播播種作業については、会津美里町直播研究会本郷支部が調整役となり、町内の作業受託組織に委託しています。馬越集落の担い手農家は、水稲春作業の軽減により、園芸作物の充実が図られています。また、直播作業を受託する担い手組織にとっては、作業受託は場が団地化されるとともに、品種が統一されたことにより、作業しやすい環境になっています。



3 集落営農の展開

平成17年4月に、馬越集落では集落の合意形成の場である馬越集落農用地利用改善組合が全農家の参加により設立されました。これにより水稻直播栽培による担い手への集積や、園芸作物の団地化も検討

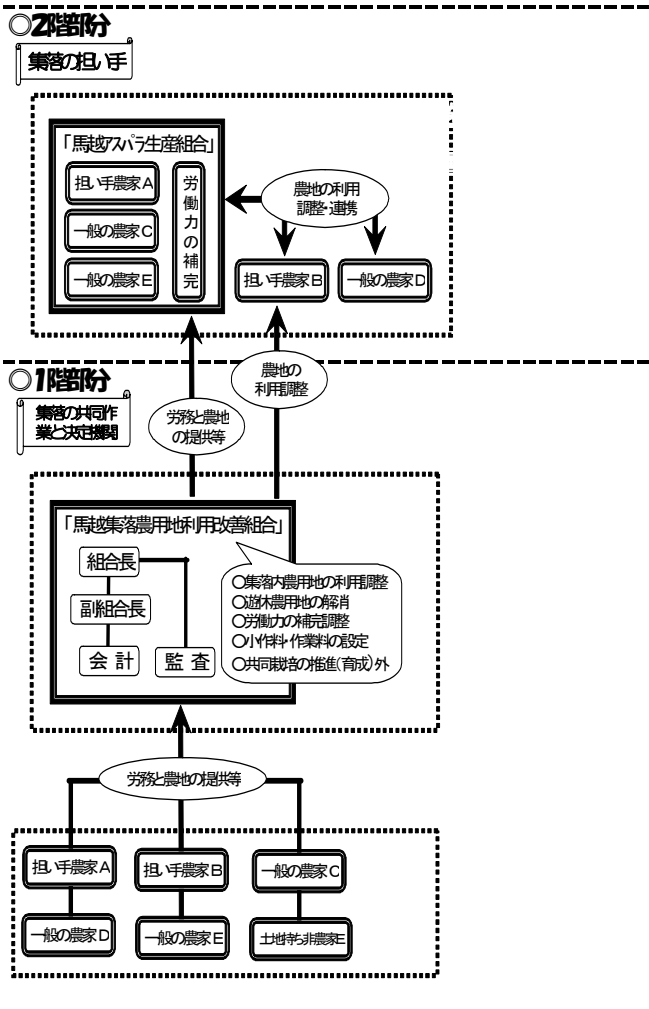


され、効率的な土地利用が可能となりました。水稻は4名の担い手に70%以上集積されています。

また、新たな取組みとして遊休農地を利用し馬鈴薯の作付けが行われ、消費者を交えた芋掘り大会を開催したほか、平成18年にはアスパラガスの共同栽培の取り組みを開始するなど、集落営農の活動も活性化してきています。

4 馬越集落の組織図

馬越集落営農組織関係図



上記のように、馬越集落では全員参加による改善組合の取組と、担い手組織の育成を課題としており、平成19年4月から、新たに馬越アスパラ生産組合の設立を予定しています。

また、集落での共同取組は、ソノを利用した土地利用集積、アスパラ直播栽培、遊休農地解消、馬越芋掘り大会(レイン栽培)となっており、産地づくり交付金の対象であるアスパラ部分には各農家の野菜を得て、本人立会のうえ口座から引落ししています。

今後の課題としては、アスパラ栽培に係る労働を、共同取組協定とアスパラ組合で振り分けることがあり、平成19年度の取組によって詳細詰める予定となっています。